

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104191
法人名	有限会社スリー・ジー・ピー
事業所名	グループホームえくぼ
所在地	松山市西長戸町440番地
自己評価作成日	平成26年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

環境の良さからくる、のんびりとした生活を送っていただきたと考えています。 何が利用者にとって安心・安全なのかを常に考え、臨機応変に対応できるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●玄関を入ったところのホールには、竹筒に花菖蒲が生けられており、春にはひな人形が飾られる。又、ソファが配されており、運営推進会議も行われる。調査訪問時には、玄関から中庭に向け初夏の風が通り抜けて、菜園や飼っているヤギの様子も見えて、気持ち良く過ごせる空間となっていた。ユニット間に中庭があり、居間等から自由にテラスに出られるようになっている。
●法人代表者と管理者は、利用者一人ひとりのエピソード等を日々メモしておき、1ヶ月でまとめ、お手紙にしてご家族に報告されている。又、事業所通信は、写真を多く採り入れて、行事等の様子がよくわかるようにされている。夏祭りやいも炊きの行事には、ご家族の参加も多く、一緒に楽しめるよう計画されている。法人代表者は、「ご家族にも自分らしく暮らしてほしい」と願っており、ご家族の来訪時には積極的に声をかけ、コミュニケーションに努めておられる。そのような取り組みは、ご家族に安心や穏やかさをもたらしており、引いては、利用者のご家族の良好な関係継続につながっているようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームえくぼ

(ユニット名)

ふじ

記入者(管理者)

氏 名

夏井 亮

評価完了日

平成26年5月26日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			理念をリビングに掲示し、全員で共有するよう心掛けている。	
			(外部評価)	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	事業所開設時に作成した、「のびのびとした生活の場所」 「ひとりひとりを尊重した穏やかな暮らし」という理念を居間や 事務所に掲示されている。法人代表者は、ご家族を介護し た経験から「介護する家族を助けてくれる事業所づくりに取り 組みたい」とグループホームを開設された経緯がある。	
			(自己評価)	
			みどり小学校の児童・鴨川中学校の生徒の社会見学や、夏 祭りを通じて近所の方々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(外部評価)	
			事業所周辺には、松山大学のグラウンドがあり、散歩コース にもなっている。又、近くには小学校や中学校もあり、職場体 験に来たり、敬老会の時期には小学生の訪問があり、歌や 踊り等を披露して、利用者を楽しませてくれている。事業所 では、近所の方達と「無理をしないお付き合いをしたい」と考 えておられ、運営推進会議の回数を重ねることに関係も深ま り、事業所主催の夏祭り時には大勢の参加があり、ともに楽 しい時間を過ごされている。	
			(自己評価)	
3			運営推進会を通して、利用者の認知症の症例の報告を行っ ている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			グループホームの中での問題や発見等を率直に伝え、様々 な職種の方の意見を取り入れている。	
			(外部評価)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	会議は偶数月の第一木曜日に開催されており、民生委員の 方やご家族、他グループホーム職員等が参加されている。 地域の方達と顔を合わせることが地域との関係を深めること にもつながっており、又、法人代表者は、困っていることや辛 いこと等をメンバーに聞いてもらったり相談したりして、一緒 に考えてもらうことが運営の安心感につながっているようだ。 管理者は、2ヶ月間の取り組みを報告することでケアを振り返 る機会にもされている。	
			(自己評価)	
			運営推進会や地区の事業者連絡会で情報共有し、担当者 と連絡を密にとるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(外部評価)	
			6月の運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当 者と協力し合って、介護保険事業所の種別やサービスにつ いてメンバーと勉強をされた。又、会議時に、事業所だけで は解決しにくいような事案について報告した際には、市社協 の方が解決に向けて協力してくださったようなこともあった。	
			(自己評価)	
			夜間のみ、玄関の施錠を行っている。勉強会にて身体拘束 の具体例の学習をしている。	
			(外部評価)	
			身体拘束について4月に勉強会を行い、どのようなことが拘 束に当たるかということを管理者が説明された。現在、おむ つをいじるため夜間や下剤服用時のみではあるが、つなぎ 服を着用する利用者がいる。ミーティング時には、おむつ内 の状態の改善について話し合いを重ね、ケアを行っておら れるところである。	すべての職員で身体拘束についての知識を深め、現状に ついて原因を探りながら、ケア改善に向けて取り組みをすす めていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や講習に参加している。入浴時や更衣時に全身観察を行い、異常の早期発見に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 理解している部分があるが、勉強会では詳しく行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時だけでなく、契約にかかわる状態に該当すればその都度説明を行い、理解・納得していただくよう図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が来られた時に、コミュニケーションをとりやすいよう、職員から話すようにしている。ケアプラン作成時には可能であれば手渡しし、意見交換をしている。意見箱を設置し、契約時には具体的な外部機関も説明している。 (外部評価) 法人代表者と管理者は、利用者一人ひとりのエピソード等を日々メモしておき、1ヶ月でまとめ、お手紙にしてご家族に報告されている。又、事業所通信は、写真を多く採り入れて、行事等の様子がよくわかるようにされている。夏祭りやいも炊きの行事には、ご家族の参加も多く、一緒に楽しめるよう計画されている。法人代表者は、「ご家族にも自分らしく暮らしてほしい」と願っており、ご家族の来訪時には積極的に声をかけ、コミュニケーションに努めておられる。そのような取り組みは、ご家族に安心や穏やかさをもたらし、引いては、利用者のご家族の良好な関係継続につながっているようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			勤務中や申し送り時に提案があれば相談することができ、良い意見があれば反映できるようにしている。	
			(外部評価)	
			今回、自己評価は職員全員で取り組み、管理者がまとめられた。又、4月からは月に1回、勉強会を行っておられ、6月には、運営推進会議時に市の担当者からいただいたパンフレットをもとにして食中毒予防等について勉強する予定となっている。法人代表者は、職員に積極的に声をかけるよう取り組み、仕事のことでなく、家庭のこと等にも気を配り、働きやすい環境づくりに努めておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務年数に合わせた昇給制度を取り入れている。勤務状況に合わせ賞与を考慮するなど、工夫に取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			研修会への参加を促したり、月1回の勉強会で情報の共有を図り、現場では先輩職員が教えるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他のグループホームとの運営推進会の相互訪問を続けており、夏祭りにも訪問していただいた。地区の事業者連絡会に参加し、他事業所との交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ケアプランや入居前の見学で、ご本人の希望や要望を聞き、日常生活の中に取り入れるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の方に、これまでの生活で大事にしていたこと、これからの生活で不安な点などを聞き、お互いに安心が得られる関係性を構築している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族にとって、何が必要なのかアセスメントを行い、どのようにすれば対応できるかを考えるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) する側・される側と分けず、利用者の能力や嗜好を考慮し、出来る事をしていただくようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方の力を借りながら、より良い方向に進めるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 居室に馴染めるよう、使用していた家具や衣類を持ち込んでいただいている。 (外部評価) 絵手紙やパン教室、民話の会、お茶会等の地域ボランティアの方達とは馴染みの関係になっており、利用者も楽しみにされている。職員が子どもを連れてくることもあり、利用者は、撫でたり笑顔であやしたりしてとても喜ばれるようだ。近隣の理髪店で散髪する利用者もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士の性格を把握し、座席の考慮をし孤立を防ぐようにしているが、一人を好む人もいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
			契約終了時に、今後のこともお話しし、相談してもらえるよう努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	
			日々の会話の中で感じられるよう努めている。意思疎通の困難な方は、家族から情報を得るようにしている。	
			(外部評価)	
			現在の身体状況や既往歴、生活歴等についてのアセスメントを行っておられる。法人代表者が利用者に「夢はなに？」と尋ねたところ、「詩吟を習ってみたい」と言われた方があった。運営推進会議の折、他ホームに詩吟を楽しむ取り組みがあることを知り、その際には交流させてもらえるようお願いされた。	日々の中で利用者が選んだり決めたりするような場面作り等に工夫して、個々の思いや意向をさらに知る取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。アセスメントを充実させて、利用者主体のケアや理念の実践に取り組まれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	
			毎月のミーティングで、利用者ごとに現在の状態や入居するまでの様子などを把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			残存能力、その日の状態、本人の希望などを確認し、1日の過ごし方を臨機応変に対応させている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			利用者が何を望んでいるか、ミーティング等で話し合い、介護計画に反映させている。介護計画は毎月確認し、アセスメントに役立てている。	
			(外部評価)	
			介護計画は、毎月モニタリングする仕組みを作っておられる。ご家族の来訪時、利用者が重ね着等をしているような場合には、「暑さや寒さを感じにくくなっている」等、日頃の様子等も報告してご本人の現状を知ってもらうことに取り組まれている。介護計画の書式には、ご家族がケアへの希望や要望を書く欄を設けており、ご家族は「無理強いしなくてもよい」ことやケアへの感謝の気持ちを書いておられる。入浴を嫌がる利用者等、職員だけでは支援が難しいような場合があれば、ご家族からも利用者にとってもらえるようお願いされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の生活の様子をケース記録に記入したり、ミーティングで話し合うことにより情報共有し、介護計画を作成している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			職員の得意な分野を生かし、家族の協力を得ながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			お茶会・パン教室等、地域の方の協力のもと、楽しく心豊かになるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族の希望があればそれぞれの医療機関に、不都合がなければ事業所の提携医療機関にお願いしている。医療機関とは日常の様子を報告し、情報共有するようにしている。	
			(外部評価)	
			ご家族と相談しながら協力し合って、受診や往診できるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			平日のほぼ毎日主治医・看護師が往診に来られ、情報交換し、相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			退所要件を再確認することで、今後の不安を払拭するようにしている。家族と連絡を密にすることにより、治療の状況・退院の時期などを主治医に報告している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			主治医より、終末期に近い利用者は早めに連絡を受け、家族にその状況を説明し、ホームとして出来る事をお伝えした上で、判断を仰いでいる。	
			(外部評価)	
			終末期の方針については、協力医が時期をみて、「もうそろそろ家族に希望を聞いておいて」と知らせてくれており、ご家族は、「ホームで最期まで」と希望されることが多いようだ。事業所では、これまでと同じように生活し、同じ場所で最期を迎えられるよう、残された人生に自然に寄り添っておられ、看取りを支援した事例は運営推進会議時にも報告をされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 4月に消防局による応急手当講習を行い、その後の勉強会でも、再度確認し、全職員に意識付けするようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、勉強会でも取り上げることで、職員に意識付けしている。運営推進会で地域の参加者には協力依頼しているが、大きな枠組みはまだできていない。 (外部評価) 年2回、日中の火災を想定した避難訓練を行っておられる。喫煙する利用者や職員は、テラスや中庭の所定の場所で吸うように決められている。前回の外部評価実施後、職員の連絡網を作成し、又、地震等、災害ごとのマニュアルを整備された。	さらに、今後は、夜間想定やマニュアルに沿った避難訓練にも取り組まれてほしい。又、地域の自主防災組織との連携等、地域との協力体制づくりも取り組みをすすめていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の性格を理解し、本人のプライドを損ねないよう意見を尊重しながら対応している。職員の言葉づかいで苦情があったこともあり、職員間でもお互い注意するようになった。 (外部評価) 耳が聞こえにくい利用者には、筆談等も試されたが疎通が難しく、現在はジェスチャーを交えたコミュニケーションに工夫されている。食事時間は居間に出て来られるが、そのほかは居室で過ごされることが多いようだ。利用者の希望で、以前から呼ばれていたように「～ちゃん」と呼んでいるケースもある。おむつ交換時は対応等、声をかけてから行うようにして、「利用者をびっくりさせない」よう、気を付けて支援されている。事業所では、絵手紙やパン教室等、利用者の楽しみごとを用意されており、利用者の絵手紙作品を見たご家族は、「こんなに描けるとは」と驚かれたようなこともあった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 誕生日の食事メニューや散髪、入浴日など、可能な限り本人の希望を表出できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) どのように一日を過ごしたいか、アセスメントを重ね希望に沿うようにしている。思いがそれぞれ異なるため、すべてに対応することは難しく、最低限の決まりごとはある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣時にどの服にしたいか伺い、本人の希望に沿うようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根とりなど、簡単な下ごしらえを手伝ってもらっている。好みに沿った食事を提供することで、残さず食べる楽しさを感じて頂いている。 (外部評価) 竹の子やつくし等、食材を利用者に見せて料理の仕方等をお聞きしながら調理したり、食べ残しをみて利用者の好き嫌いを探り、食事が楽しみになるような支援に努めておられる。食事のメニューは、職員が毎日手書きしてカウンター近くに掲示されている。お誕生日には、ご本人の歯の状態に合わせてケーキやプリン等、デコレーションし、昼食はお好きなメニューでお祝いされている。時には、インスタントラーメン等も食卓に上り、利用者は喜ばれるようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 病態に応じた食事内容としている。残食がある場合はその原因を考え、次回につながるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必要な方は介助しながら、行っている。家族や歯科医師の協力を得て、ケアしている利用者もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表を使用し、尿意のない方でも失敗することなくトイレで排泄できるよう、言葉かけを行っている。	
			(外部評価)	
			利用者の状態に応じて声をかけたり誘導したりして、トイレで排泄できるような支援に努めておられる。下剤服用時には、ご家族がそばに付いて支援するような場合もある。今後さらに、排泄支援については、個々の活動量や水分量、入浴や食事等、総合的に点検し、利用者の立場に立ったケアに工夫を重ねていかれてほしい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			乳製品を取り入れた献立作りをしたり、体操したりしている。起床時の牛乳摂取や腹部マッサージなど、自然排泄を心掛けているが、下剤・坐薬に頼ることが多い。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			順番に言葉かけし、その日入浴するかどうかの希望を伺っている。拒否された場合には、翌日再度言葉かけするようにしている。入浴中は個々人の残存能力に応じ、必要な援助のみ行うようしている。	
			(外部評価)	
			3日に1回入浴できるよう支援されている。車いすを使用する方はシャワー浴で支援されている。入浴がお好きでない利用者も多いようで、お気に入りの職員が声をかけると入浴につながるような場合もある。又、ご家族来訪時には、お風呂に入るよう声をかけてもらう時もある。	さらに、利用者一人ひとりに合わせた気持ちの良い入浴を支援できるよう、個々の入浴習慣等も探りながら支援を工夫されてほしい。この機会にご家族とも入浴を楽しむ支援という視点から、ケアの工夫について話し合ってみてはどうだろうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			リビングでうとうとしたり、昨夜あまり眠れなかったりした利用者には、日中でも居室にて休んでいただくようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を読み返し、各々の服用している薬の作用・副作用を把握するよう努めている。新しく服用を始めるときは症状の変化に注意している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ハーモニカや将棋、手先を使う作業などその人に合った役割を果たしてもらっている。全体では体操や合唱など、レクリエーションで気分転換を心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節に応じた外出などは行っているが、職員体制や利用者の気分により、日常的には行えていない。 (外部評価) 男性利用者が、毎日、事業所の外回りや共用空間を掃除してくださっている。「こんないい環境のところは他にはない」とよく言われるようで、畑や庭で採ってきた草や木等を居室に飾ってご自分で楽しまれている。毎日のようにご家族が来訪し、一緒に散歩に出かける利用者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で管理している利用者もおられるが、使用する機会は少ない。欲しいものは職員に言いやすいよう、常に希望を伺うようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を保有している方もいる。ない方でも訴えがあればその都度対応している。本人宛の手紙はいつでも読めるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングやトイレが分からなくなる利用者には、大きな張り紙で明示している。リビングには季節に合った掲示物をしたり、日常の写真を掲示したりしている。	
			(外部評価) 玄関を入ったところのホールには、竹筒に花菖蒲が生けられており、春にはひな人形が飾られる。又、ソファが配されており、運営推進会議も行われる。調査訪問時には、玄関から中庭に向け初夏の風が通り抜けて、菜園や飼っているヤギの様子も見えて、気持ち良く過ごせる空間となっていた。ユニット間に中庭があり、居間等から自由にテラスに出られるようになっている。調査訪問時には、テラスでたばこを吸う方や日向ぼっこする様子が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング・デッキ・玄関先などに椅子を配置している。交流室に季節の飾りつけをしていることもあり、利用者同士の交流の場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族・利用者と相談し、必要なものがあれば随時持ってきて頂き、心地よく過ごせる工夫をしている。	
			(外部評価) 居室に他者が入ることを嫌う利用者が多く、ご家族から利用者に許可を得てもらって職員が掃除に入ったり、時にはご家族の協力を得て整理等してもらっている。居室の環境について、換気や掃除、又、しつらえ等について、利用者一人ひとりの居心地良い空間となっているか、点検してみてもうどうか。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 履物や手すり、椅子の位置など危険予防に努めながら、可能な限り自立していただけるようにしている。	